

歯周・インプラント周囲組織の形態学特論（松尾雅斗）

Advanced Course of Periodontal Tissue and Peri-implant Tissue (Masato Matsuo)

キーワード

- ① 歯周組織・インプラント周囲組織
- ② 微小循環
- ③ 電子顕微鏡
- ④ 歯科再生医療
- ⑤ 画像解析

授業概要

歯周組織・インプラント周囲組織の構造を学ぶために必要な形態学的知識と研究方法を学ぶ。講義は(1)歯周組織・インプラント周囲組織の微細構造、(2)歯周組織・インプラント周囲組織の微小循環と微細血管構築の三次元構築、(3)蛋白分解酵素-凍結乾燥法による骨添加・吸収機構の観察と解析、(4)コンピュータを用いた画像処理と解析の小ユニット順に行い形態学から再生歯科治療を考察できる知識を修得する。

授業科目の学修目標

歯周組織・インプラント周囲組織の構造を形態学的に理解する。また、組織の正常と修復・再生時の形態学的変化を認識する。顕微鏡・電子顕微鏡など形態学的観察を通じて微小循環と骨形成のメカニズムを身につける。観察・分析を通して培われた知識を臨床歯科医療へとフィードバックすることを目標とする。

授業計画

- ① 歯周組織・インプラント周囲組織の微細構造 6コマ 松尾雅斗
- ② 歯周組織・インプラント周囲組織の微小循環と微細血管構築の三次元構築 10コマ 松尾雅斗
- ③ 蛋白分解酵素-凍結乾燥法による骨添加・吸収機構の観察と解析 10コマ 松尾雅斗
- ④ コンピュータを用いた画像処理と解析 4コマ 松尾雅斗

教科書および参考書

Oral cells and Tissues P.R.Garant, Quintessence.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

講義内容を理解し指導教員とともに確認して講義に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 周組織・インプラント周囲組織の微細構造構造を説明できる。
- ② 歯周組織・インプラント周囲組織の微小循環と微細血管構築の理論を理解し説明することができる。
- ③ 蛋白分解酵素-凍結乾燥法による骨添加・吸収機構を理解し説明することができる。
- ④ コンピュータを用いた画像処理と解析を理解し説明することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
10%	0%	20%	30%	40%	0%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った知識の理解度を判定する。1回10%
- ・成果発表は関連学会で発表を行いその理解度を判定する。1回30%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。5%×4回=20%
- ・ポートフォリオは、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

歯周・インプラント周囲組織の形態学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。